

天遊

大阪教育大学広報誌 TENYU
Winter.2015 No.32



Contents

02 「学生チャレンジ
プロジェクト」

男女共同参画推進コラム
手をつないで Vol.9

04 内定者INTERVIEW

08 新任副理事紹介
向井副理事に聞く!

09 STUDENTS NOW!

10 卒業生キャッチ

11 附属学校園ウォッチ
本読みのススメ 第9話

12 TOPICS



人にまっすぐ。
大阪教育大学

学生 チャレンジプロジェクト

個性豊かな企画が続々実施

学生の自主的なチャレンジ企画に対して大学が支援する「平成26年度学生チャレンジプロジェクト」において6つの企画が採択され、取り組みが続々実施されています。

01 デザインの力で愛されるキャラクターに 公式キャラクタープロデュース大作戦!

取組概要

SNSなどを利用して、公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」を学内外にPRするとともに、今後のキャラクターPRの手段や魅力的なグッズデザインを提案する。

実施状況

LINEクリエイターズスタンプ*1制作

春夏秋冬のコスチュームに扮したのや、大教大の特徴を表現したものなど、限定デザイン36種を含む全40種類を配信予定! 1ダウンロードにつき100円(税込)。

*1…LINE株式会社提供のコミュニケーションアプリ「LINE」内で使用するメッセージイラスト



LINEクリエイターズスタンプ

動画制作

アニメーション「だるまさんがころんだ」とオリジナルソング「やまたまのうた」を制作。大阪教育大学ウェブサイト、YouTubeのOKU Channelで配信中!



動画「だるまさんがころんだ」

神霜祭における キャラクター特設ブースの出展

グッズ制作(ブックカバー、マグカップなど)と、その評価アンケートの実施。



たまごの形の雛はお月様色
動画「やまたまのうた」



神霜祭

企画から得られたこと

動画やグッズが好評を博したことから、デザインやアイデアの力で、より魅力的に変身させることができると自信を持てた。著作権を管理する総務広報係との折衝で、交渉術が身に着いた。専門的なデザインソフトを扱って、短納期で制作物を量産することで、デザインスキルが向上した。

02 科学体験指導を通してともに学ぶ みんなの手作り科学館 ~大教生 教師向上力project!!~ 第3章

取組概要

子どもの好奇心を引き出し、学生の理科教育の指導力向上を目標に、学内外で科学体験教室を開催する。

実施状況

学園祭やオープンキャンパスといった学内イベントのほか、大阪府の公立私立高等学校、地域子ども会で、手作り教材を使用した科学体験教室を開催した。

企画から得られたこと

科学を身近に感じてもらうために、教科書に載っている科学現象の日常生活との結び付きを解説するなどのさまざまな工夫をした。教材の改良や解説を通して、科学への深い知識が身に着いた。



03 音楽から災害と見つめ合う 「とどけよう!! みんなのこえ!!」~東日本 大震災復興コンサート~vol.2 ふるさと

取組概要

復興コンサートを開催し、演奏を通して、地域の人に「被災地の現状」を伝えていく。

実施状況

音楽教育専攻と芸術専攻音楽コースの学生、および地域の子どもたちによる復興コンサートを、11月23日(日)に柏原キャンパスリハーサルホールで開催した。

企画から得られたこと

当初10月13日(月・祝)の開催予定が、台風により中止となり、運営スタッフがあらためて自然災害を見つめ直した。学科を超えての取り組みで結び付きが強まった。出演した子どもたちに、作品理解についての指導や、楽器体験講座を催し、指導力の向上につながった。



05 被写体から現地の思いをつなぐ 写真展「FILMが写した世界」

取組概要

東日本大震災にまつわる写真展を、2015年1月22日(木)から28日(水)の期間に柏原キャンパス学生会館2階大ホールで開催し、被災地の現状や現地の人々の生き方に思いを巡らせる動きかけをする。

実施状況

8月と11月に、岩手県陸前高田市や福島県南相馬市などの被災地で取材を敢行した。

企画から得られたこと

2度の取材を通して、建物の復旧作業は順調に進んでいるものの、人々の心も比例して癒えたわけではないと感じた。それでも、現地の人との対話から、目に見える部分の復興からふるさとへの再生に懸ける思いを肌で感じ、写真を通して大教大と東北をつなぐ架け橋になりたいと思った。



06 コラボレーションでコミュニケーション Dance and Arts Educational Communication

取組概要

「コラボレーション」をテーマに、本学ダンス部「L.S.B.」「民族舞踊部」「DIL」と、モダンダンス部OB・OG、京都教育大学および奈良教育大学のダンス部、柏原市のキッズダンサーと、それぞれ作品を創作し、2015年2月11日(水・祝)柏原市民会館リビエールホールで上演する。

実施状況

公演に向けて、各団体と合同練習を実施。

企画から得られたこと

他の団体との練習を通して、ダンスに取り組む姿勢や曲の解釈など、さまざまな角度から学び、吸収できた。より良い舞台を創り上げるために、団体の枠を越えてコミュニケーションをとり、議論を深められた。



昨年度の公演の様子

04 障がいへの意識啓発をめざして みんなの Chat & Map

取組概要

「障がい理解」や「特別支援教育」について関心を持ってもらうために、「交流イベント シャベリ場」を企画・実施する。また、名物スポットを紹介するオリジナルのキャンパスマップを作成する。

実施状況

「シャベリ場」…オープンキャンパスでは、現役学生による特別支援専攻についての相談会と障がい体験教室を、神霜祭では、障がい学生を交えた懇親会を開催した。「マップ作成」…学生や教員に、名物スポットの聞きとりを実施。

企画から得られたこと

「シャベリ場」…それぞれのイベントアンケートで、参加して支援に対する意識が高まったとの声が多数寄せられた。「マップ作成」…たくさんの意見を聴取して、思いもよらない見方に学ぶ部分が多かった。



男女共同参画
推進コラム

手をつないで Vol.9

大教大ロールモデル2014と 男女共同参画推進ロゴマーク

アベノミクスの主要政策として女性活用が掲げられています。国立大学の平成25年度における女性教員比率は平均14.1%ですが、本学は23.9%であり、86大学中、第5位と女性教員が多い大学です。

男女共同参画推進会議企画専門部会では、平成24年に策定した「大阪教育大学男女共同参画推進行動計画」に沿って様々な活動を行っています。7月のオープンキャンパスでは「大教大ロールモデル2014」を高校生や保護者に配布しました。ロールモデルは近年、大学や企業が積極的に作成していますが、特に他大学では「リケジョ」と呼ばれる理系女性研究者や大学院生のロールモデルが多く公表されています。本学では初めての



取り組みでしたが、後発組という弱点を逆に利点として、他大学とは違うものというコンセプトで作成しています。大学構成員である教員、職員、社会人大学院生男女数名をロールモデルとして依頼し、高校生に対してキャリア形成の刺激となるように工夫している点が特徴です。なお「大教大ロールモデル2014」は、柏原キャンパスでは人事課と入試課、天王寺キャンパスでは事務室にて配布しています。

男女共同参画に関連するマークとして「くるみん」イイクメンプロジェクトがあります。本学の男女共同参画推進ロゴマークも昨年、遂に誕生しました。一昨年、162件の応募作品から附属池田中学校の生徒さんが考案した作品を最優秀賞として選出し、このオリジナルをさらにデザイン化しました。受賞の際のコメントは「男女はもともと1つだったという意味で、男女平等だと表したくて描きました」。これからの男女共同参画推進関連の資料にはこのマークが大活躍しますので、皆さん覚えてください。

男女共同参画推進会議
企画専門部会長 永井由美子(健康生活科学講座教授)



奈良県の小学校教諭に採用内定

山倉 のどかさん 学校教員養成課程数学教育専攻小学校コース

— どうして小学校教諭を志望したのですか
小学1年生の図工の時間で折り紙が上手に折れずに泣いていたとき、担任の先生が「うまく折れているね」と褒めてくれたのです。そんな先生を見て、わたし子どもに安らぎや安心感を与えられる教師になりたいと思いました。

— 大学生活はいかがでしたか
部長を務めたモダンダンス部で、柏原市のキッズダンサーに振付を指導し、舞台と一緒に踊りました。そのときの子どもの笑顔にふれ、小学校でも体を動かして自分を表現することの魅力を教えていけたらと、教師への意欲が高まりました。ダンスを通して身体表現だけでなく、感情表現も豊かに育みたいのです。

— 奈良県の教員採用試験では、総合1位を獲得したそうですが
筆記試験対策として、受験までの二ヶ月間、朝の9時から夜の9時まで、大学の自習室で勉強し、万全の態勢で臨みました。面接では、キャリア支援センターアドバイザーの田中達先生、竹島園枝先生から指導を受け、発声の仕方や表情の作り方など外面を多角的に分析

できました。外面部分をクリアすることで、内容にも関心をもってもらえたのではないかと思います。

— その他試験で工夫したことは
模擬授業です。テーマは「詩の面白さ」で、韻文詩と、それを通常の散文にした文章が与えられ、その違いと詩の楽しさが伝わる授業展開が求められました。わたしの場合は、外国語指導助手のジョン先生という架空の存在を見立て、日本の詩に興味のある先生のために詩について調べてみようという発想からストーリーで進めました。詩についての興味を惹くよう導入部分を工夫し、積極的に発言できない子どものために、ペア学習と全体発表で自分の意見を伝えさせるという、私の持論を取り入れて、他の受験者との差別化を図りました。

— どんな学級をつくりたいですか
学校が日常の大半を占めますから、誰かがつらいことや苦しいことがあったとき、皆で声を掛け合い、乗り越えていける、温かくて楽しい我が家のような学級をつくっていきたいです。

我が家のような学級に



大阪府の高等学校教諭(数学)に採用内定

成田 勝彦さん 学校教員養成課程数学教育専攻中学校コース

— なぜ高校教諭になると思ったのですか
高校時代に野球部の顧問をしていた恩師の影響から、部活の顧問、できれば硬式野球部の監督になりたかったからです。恩師は野球知識が深だけでなく、規律や規範に厳しい人だったので、ほくも部活動を通して人間的な成長を促せる指導者をめざしたいです。

— 部活に思い入れがあるのですか
高校時代は、三国丘高校で中心選手になり、夏の選手権大会予選でベスト16に進出しました。しかし大学ではベンチ入りメンバーから外れ、栄光と挫折の両方を味わいました。厳しかった恩師がベンチ外のメンバーの心情を思いやり、涙を見せた情景が甦り、ほくもお互いの心情を汲み取って、部員全員で支え合い、勝ちあがるチームを指揮したいと思うようになったのです。

— 大学4年間はどのように過ごしましたか
硬式野球部での練習に明け暮れ、濃い大学生活を送りました。主力として活躍することはできませんでしたが、悔しさを乗り越えて、よりいっそう指導者として後進を育てる思いが強くなりました。

— 部活と教員採用試験勉強との両立は大変だったのでは
硬式野球部は5月中旬に春季リーグが終わるので、秋季リーグが始まるまでは休部措置が受けられるのです。教員採用試験が始まる7月中旬までの二ヶ月間は、大教UNIPAで配信されている、高橋一郎准教授の教員採用試験対策講座をまとめ聴きし、過去問題を繰り返し解くことで筆記試験の関門を突破できました。硬式野球部の猛練習で培われた集中力のおかげだと思っています。

— 数学教諭としての意気込みもどうぞ
数学が苦手な生徒が多いので、さまざまな角度から解答を導くプロセスを解説して、解くことが楽しいと思える授業づくりを頑張りたいです。

— 後輩へのアドバイスを
部活動に熱心な学生は、教員採用試験や就職活動の準備が遅れがちです。試験までの計画をきちんと立て、キャリア支援センターの面接指導予約は早めに済ませましょう。しっかり準備ができれば、必要以上に緊張せず、教育への姿勢と熱意を伝えることで結果はおのずとついてくるはずです。

悔しさを乗り越えて



さまざまな社会にふれて



豊能地区の小学校教諭に採用内定

田中 悠太郎さん 第二部(夜間)小学校教員養成5年課程

— 働きながら学生生活を送っているそうですが
昼間の時間に、『特別支援教育補助員』など、学校現場での学習指導員として働いています。理由は二つあって、教師を志す上で、早いうちから教育現場にふれて、学びたかったのが一つ。もう一つは、働いて学費を賄い、経済的にも精神的にも自立したかったからです。

— 大学生活はいかがでしたか
授業面では、教育実習で附属と公立、個性の違う二つの小学校の教壇に立ったことが印象深いです。校風が大きく異なるので、授業の進め方や子どもへの接し方にも変化をつけ、比較検討もしました。学習指導員とはまた違う経験で、視野が広がりました。交友面では、二部は年代も経歴もさまざまな学生がそれぞれの夢に向かって勉強しているので、お互いの存在がとて刺激になります。また、共通の友人とのつながりで、一部の学生とも教員採用試験の勉強会で交流が持てたのも良い思い出です。

— 豊能地区を受験されたのですか
ほくが受験した大阪府豊能地区は、豊中市、

池田市、箕面市、豊能町、能勢町の3市2町からなり、平成27年度から政令指定都市以外では全国初となる、市・町単独での教員採用選考を実施しました。情報の蓄積もないため、受験するかは正直悩みました。しかし、子どもたちにチャレンジ精神を説くにはまず己からと思い、受験を決意しました。

— 試験で印象に残っていることは
実技試験を図工、音楽、外国語活動の3つから選択できるのですが、ほくは英語好きだったので、外国語活動を選びました。内容は、1分間の自己紹介と英語での質疑応答です。質疑応答のほうは中学生レベルの問題ですが、正確さはもちろん、親しみを持てる伝え方を意識して会話をしました。二部の授業で英語の楽しい伝え方を学んでいたことが役立ちました。

— 4月からの意気込みを
日々アンテナを張ることで、子ども一人ひとりの長所や変化にいち早く気づき、楽しく安心して学校生活を送れる環境をつくりたいです。また、学校の外にもさまざまな世界があることを、人生の先輩として伝えていきたいです。

子どもの笑顔引き出せるように



神戸市の特別支援学校教諭に採用内定

伊東 さくらさん 特別支援教育教員養成課程

— なぜ特別支援学校教諭をめざしたのですか
教員である父から、一定の割合で学級に在籍している障がいのある子どものために、今後、特別支援の知識が必要になると助言を受け、特別支援課程への進学を決めました。ただ、入学当初は普通学校を含め、単純に教師になりたいというだけでした。2年生から小学校の支援学級にボランティアとして関わったことで、もっと特別支援について学ばなければとの意識にめざめ、3年生時に、特別支援学校と普通学校の両方の教育実習を体験して、特別支援学校の個性豊かな子どもたちとともに成長したいと思い、進路を固めました。

— 教員採用試験ではどのような準備を
地元の特別支援学校教諭一本に絞り、背水の陣で臨みました。キャリア支援センターの面接指導も予約上限まで通いました。笑い話のようですが、田中達アドバイザーとの面接練習で、わたしの特技が合唱なので、「じゃあ何か歌ってよ」と無茶ぶりをされて。歌うと、「子ども受けする曲がいいよ」とアドバイスをもらいました。そうしたらなんと、採用試験で

も「歌ってみてください」と言われて、映画『崖の上のポニョ』の主題歌を歌いました。ほんとうに田中先生のおかげです。また、神戸市の教採カフェにも参加して意見交換をしたり、教師以外の進路を選んだ友人からの客観的な意見を取り入れました。

— 面接ではどんなアピールを
高校の部活動と神戸市内の合唱団で7年間合唱を学びました。自己PRでは、その培った音感や表現力を活かし、教育実習で一緒に歌ったり、伴奏したりすることをきっかけに子どもとの距離を縮めたエピソードを話しました。また、特別支援学級の子ともと接するとき、表情を豊かに、ボディランゲージを駆使して思いを伝えていたので、面接でもそれを心掛けました。

— どんな先生になりたいですか
子どもは皆、笑顔で人を幸せにする力を持っています。その笑顔引き出すことができる、安心を与えられる先生が理想です。目の前のハードルを一つひとつクリアして、いつかそんな先生になれたらと思います。



大阪府庁(行政職)に採用内定

岩崎 茉莉さん 教養学科健康生活科学専攻

— **なぜ大阪府庁を志望しましたか**
 学童指導員や児童いきいき放課後指導員の経験から、子どもの笑顔を守り、支えることがわたしの信念になりました。ただ、教師としてではなく、行政から子ども、保護者、学校、地域、その全般をサポートすることで、子どもを取り巻く問題を根本から改善できるのではないかと思います。当初は地元の市役所を考えていましたが、大阪府庁の説明会で話を聞くうち、直接的な子育て支援だけでなく、教育委員会との連携、雇用形態の改善など、どの部署でも子どもの支援につながり、わたしのやりたいことが詰まっていると感じました。

— **大阪府は民間式の採用選考です**
 筆記試験はなく、小論文にグループワーク、面接など多岐にわたります。論文は体罰問題についての見解を問われましたが、大学でよく提起されていたので、すらすらと書けました。面接では、関心のある施策についての問いがあり、親教育や児童虐待など、教育につながるものを答えましたが、徹底的に掘り下げて質問を返され、切り返しに苦労しました。面接官

は、考えが一貫しているかを判断しているようだったので、建設的に論理を展開することを心がけました。

— **大学4年間はいかがでしたか**
 生活科学領域を専攻しました。授業は実習が多く、協力して調理したり、家の模型をついたりと協調性も養われました。また、2回生の夏休みには、語学研修にアメリカへ飛びました。考え方や文化の違いにふれ、自分の当たり前は他人にとってはそうではないことを痛感しました。学童保育でも、家庭環境は十人十色なので、細かな配慮のできる人間になればとあらためて思いました。

— **後輩へアドバイス**
 公務員試験は、最終的には面接がものをいいます。わたしの場合は、学童保育や留学の経験をアピールしましたが、自分が成長するための経験は、就職活動でも必ず武器になります。また、質問の回答は想定したものを用意せず、その場の自分の言葉で伝えること。これが相手の心に一番響くポイントです。

自分が成長できる経験を



株式会社オリエンタルランド(総合職)に採用内定

山野 雄祐さん 教員養成課程教育科学専攻

— **教育科学専攻からなぜ企業就職に**
 昔から、毎年ディズニーランドに家族と遊びに行っていたので、いつかはその運営会社で働きたいという気持ちはありました。ただ、当時は手の届かない夢にすぎなかったもので、もう一つの夢である小学校の教師になるため入学しました。しかし就職活動に臨むにあたり、学校という範囲を超えて、より多くの人々の心に灯りをともす仕事がしたいと思い直し、企業就職に舵を切りました。

— **大学4年間の感想は**
 1回生の夏休みに、短期のアメリカ語学研修を体験しました。未知の世界に新鮮な刺激を受け、その後も毎年海外に飛んで見聞を広めました。旅行好きが高じて、『国内旅行業務取扱管理者』という国家資格を取得し、就職面接ではそこからも話が広がりました。

— **面接ではどんなアピールを**
 オリエンタルランドの中長期計画に、新たな地域での新規事業の構想があり、教育事業への進出も含まれていました。大勢の優秀なライバルとしのぎを削る中で、自分を売り込むにはここで

と思いました。アトラクション企画や商品開発も魅力的ですが、教育学を専攻しているのだから、その強みをアピールしたいと思ったのです。

— **会社ではどのような役割に**
 人によってジョブローテーションの間隔や頻度は異なりますが、最初はベテランキャストの下で学び、それ以降は、キャストをまとめる時間帯責任者(スーパーバイザー)としてステップアップする体制です。まずは会社のコア事業であるテーマパーク事業をしっかり理解し、ここで得た経験や人脈を将来的には本社部門等で行う企画の立案の中で活かします。わたしも将来はキャストの意見を吸い上げて、会社と現場をつなぐ調整役として力を発揮したいです。

— **後輩にアドバイスを**
 就職活動は様々な人と会話できる貴重な機会です。それに、周囲の支えにあらためて気づく機会でもあります。ぼくの場合は、家族がエントリーシートを点検してくれ、指導教員の水野治久教授が作戦を練ってくれました。周囲への感謝の気持ちを大事に、気負わず楽しんでください。

人の心に灯りをともせるように



関西の大手百貨店(総合職)に採用内定

山田 美穂さん 教養学科芸術専攻音楽コース

— **なぜ百貨店を志望したのですか**
 コンビニでアルバイトをしていますが、お客様からの“ありがとう”という言葉が嬉しくて、直接笑顔に出会える小売り、外食業界に志望業種を絞りました。それに、接客、品出し、発注など全般を任せってもらうことで、小売り業務の流れがわかり、働くイメージが湧きやすかったのもあります。百貨店を志望した理由は、わたし自身よく通っていたのでなじみがありましたし、地域に根差した百貨店での販売を通して、そこに住む人の心や暮らしを豊かにするお手伝いがしたかったからです。

— **アルバイト経験を面接に活かせる**
 お客様一人ひとりへの接客時間は、百貨店に比べて短いですが、その一瞬の場面から気づきを多く得ます。例えば、冷たい飲み物と雑誌と一緒に購入された際には、雑誌が濡れないように、飲み物ボトルの水滴をふきとる配慮をしました。面接でも、日々の業務をルーチンワークにせず、お客様の目線に立って対応していることをアピールしました。

— **音楽コースではどんな活動を**

作曲を専攻しています。ゼミでは、定期的に創作した曲の評論会が開かれるのですが、自分とは異なる作風から学び取る部分や、作品解釈で自分の意図していない捉え方があり、いつも新鮮で刺激的でした。卒業制作は、与えられたテーマにあわせて楽曲をつくるというものです。穏やかな気持ちで満足のいく作品を仕上げたいです。

— **百貨店でどんな職種を希望しますか**
 創作好きなので、企画を希望します。以前に会場を外国の市場に見立てた催事に足を運んだことがあります。そういった非日常の空間はお客様同士の距離も近くなるのです。わたしも斬新で魅力的な企画を実施し、お客様同士のつながりをつくる仕事をしていきたいです。

— **後輩にメッセージを**
 接客は、経験したことのない人にはしんどい仕事に見えるかもしれませんが、でも教師と同じで、誠心誠意、熱意をもって対応すれば、必ず相手に気持ちが伝わる仕事です。教員養成大学で学んだ知識は、企業で働く上でも必ず生きてきますよ。

お客様の目線に立った発想を



一般社団法人共同通信社(記者)に採用内定

酒井 由人さん 教養学科自然研究専攻

— **マスメディアを志望していたそうですが**
 教育分野に関心があったため、教師の道も考えましたが、学校で問題が起こっても教師は子どもや保護者など周囲への対応に追われてしまう。マスメディアのほうが問題の深層にストレートに切り込めるのではないかと思います。当初は放送業界を志望していましたが、企画力や創造力が第一に求められました。室内で考えるよりも、各地を飛び回って現地の声を拾い、それを多くの人に届ける記者の仕事がぼくに向いていると感じ、キャリア支援センターの田崎悦子副センター長の助言もあって、方針転換したのです。

— **面接ではどのようにアピールしましたか**
 “教育大の酒井くん”で覚えてもらえるように、志望動機や自己PRは教育問題に集約させました。特に附属池田小学校事件については、附属での教育実習中に追悼式『祈りと誓いの集い』に参列したことで、学校現場で起こったこの痛ましい事件を教訓として、学校や地域で語り継いでいくべきだとの思いを強くしました。記者として、学校安全の取り組みを

広く周知させたいと訴えました。

— **就職活動をふりかえっていかがでしたか**
 夜行バスを利用して、説明会やインターンシップ、OB訪問など、全国ありとあらゆる場所をめぐり、心身ともにタフになりました。また、マスメディア志望の学生は行動パターンが似通っているの、自然と顔なじみになりました。今後の記者人生でも役に立つと思います。

— **記者としての意気込みを**
 記者の仕事は、“夜討ち朝駆け”。朝早くから夜遅くまで、刑事のように張り込み、緊迫した現場の状況を伝えたいです。また、周りに教員志望の友人も多いので、そこを通じて教育現場の声も発信していけたらと思います。

— **後輩にアドバイスを**
 就職活動は、準備がすべて。早めの対策が肝要です。しかし、何よりも自分のやりたいことを突き詰めることが大事です。志望先が明確な人も、なぜその職業に就きたいのか、それは他ではできないのか、深く追求してみてください。そこから新たな発見が生まれるかもしれません。

教育問題を記者の視点から



新任副理事紹介

向井副理事 に聞く!

MUKAI Yasuhiko

むかい やすひ こ
向井 康比己 副理事・副学長
国際・研究担当 平成26年4月就任



「わたしは学者肌で、大勢の前で演説するような派手なパフォーマンスは苦手です。それでも、若いころに好きなことをやらせてもらいましたから、その恩義に報いたいと思います」と向井康比己副理事・副学長は、就任について温和な表情で語ります。担当は国際と研究。副理事のこれまでの人生を体現するものです。

大阪府岸和田市に生まれ、多感な時期を名古屋市で過ごした向井少年は、家の裏山で昆虫採集や花の観察を楽しみ、日が暮れるまで自然を満喫しました。その影響から、横浜市立大学で生物学を専攻し、京都大学大学院で、遺伝学を専攻してコムギのゲノムを研究しました。1976年9月に本学助手に採用されて以降、現在に至るまでの38年間で、小麦の遺伝子研究一筋に歩んでいます。「人類繁栄をもたらした偉大な作物であるパンコムギは、何の変哲もない野生種との自然交配によって生まれました。大阪の食文化の代表格“粉もの”は、まさにその恩恵を受けているのです。進化のルーツを探るのはロマンがありませんか」助教授時代に米国のカンサス州立大学から客員教授としての招聘を受けました。そこでの研究生活は、その後の人生を変える運命的なものでした。「論文が年に10本執筆できるほど研究に専念でき、待遇も恵まれた環境で研究三昧の日々を送りました。世界中のさまざまな分野の研究者と交流でき、そこでまったく異なる価値観との遭遇があり、まるで夢のようでした」と振り返ります。

豊富な海外経験と研究業績が評価され、国際センター長に就任すると、留学生寮の改築や奨学金の創設など、受け入れ環境を手厚くし、6年間で留学生の数を1.5倍に伸ばしました。しかし、「日本人学生とともに学び合い、高めあうには全学生の1割、400人程度が理想です」とさらなる拡充を訴えます。

それには環境の整備が必要ですが、「まずは教員を海外の協定校に派遣して、語学力と専門力を強化することが望めます。住居を確保するため留学生寮の増設も急務で、教職員宿舎の一部改築も実施しました。さらには、カリキュラムを改組し、日本語教育プログラムの開設や、英語による授業履修のみで学位が取得できる制度改革も必要です」と具体的なビジョンを描いています。

日本人学生の派遣においても、海外語学・文化研修の必修化を目標に掲げます。「たった一週間の研修でも英語力は各段に上達しますし、精神的にも成長します。一步を踏み出すきっかけがあれば、本学の優

秀な学生は必ず飛躍できます。その機会を大学が提供しなければいけません。ぜひ大阪から世界へ飛び立ち、さまざまな文化や考え方にふれてほしい」と力強く語ります。

もう一つの任務である研究支援については、学生の教育に専念するため、それまで続けてきた研究を断念してしまう教員がいる現状にふれ、「大学という機関は教育と研究、どちらに比重をおくべきかという議論がよく交わされますが、わたしは両方とも同じ比重であるべきだと思っています。車の両輪と同じで、どちらかが大きいと正しい方向に進めません」と見解を述べます。「良い背広は裏打ちがしっかりしているように、教員養成系大学においても、確かな研究に基づいてこそその教育であるべきです。教育に活かすためにも、研究費の重点配分を進め、優秀な教員の皆さんが研究にも力を注げる環境を整えます」と抱負を語ります。

管理職に就任し、研究の第一線からは退いたかと思えば、「選歴を超えて、花のランの染色体研究を始めました。ランは違う属同士でも交配でき、あくなき進化を続ける植物です。小麦研究で培った遺伝子解析のノウハウが使えますから、ランのゲノム研究に挑戦しています。蘭学事始、ですね」とアグレッシブな向井副理事でした。

【略歴】
平成8年4月～…………… 教養学科自然研究講座教授
平成20年4月～平成20年6月…… 留学生センター長
平成20年7月～平成26年3月…… 国際センター長



インドの科学フォーラムにて

S TUDENTS Now!



二部の特色、フル活用!

竹本 貴志さん
Takemoto Takashi

第二部(夜間)小学校
教員養成5年課程
4回生

「絶対二部のほうが実践経験を積めるし、将来教師になったときに生きてくると思っています。そこは一部やほかの教育大学にも負けていません」と竹本貴志さんは第二部実践学校教育専攻の魅力について目を輝かせて語ります。

一例として先輩から聞いた、同期で採用された新任教諭二人の対照的な話を語りました。第二部時代に教育系のアルバイトをしていた先生と、総合大学で教育実習を経験したのみの先生です。「4月の第一日目から二部出身の先生は現場にすぐ対応でき、子どもの様子もよく観察できていると評判でした。一方、一般大学出身の先生は、いきなり学校の最前線に投入されるわけですから、要領がつかめな。印刷機の使い方さえも知らなかったそうです。もちろん経験で埋められる範囲ですが、学生時代から実践経験豊富な二部出身者は一歩前のスタートラインに立っていると思います」と胸を張ります。

竹本さんも、昼間は大阪市内で「教育活動支援員」「放課後ステップアップ事業」など、4つの教育系アルバイトを掛け持ちし、夜は天王寺キャンパスで授業を受け、放課後にはバスケットボールサークルで汗を流す、忙しくも楽しい毎日を送っています。

「教育活動支援員」は、通常学級に在籍する発達障がいのある児童・生徒を学習面で補助する仕事です。「対象の児童だけだ

く、授業理解の遅い児童をサポートしたり、休憩時間も一緒に遊んだりして、始業から終業まで子どもたちと過ごします。担任には見せない表情を見せてくれることもありますよ。担当する学級は日によって違うため、さまざまな学級の様子を観察でき、「統率がとれている教室は、掲示板やロッカーがきちんと整理整頓されていますし、先生自身の身の回りもきれいです。子どもは身近な大人のまねをしますから、授業だけでなく、生活習慣も律しないと」と将来の参考になる部分も多いようです。

放課後は、「放課後ステップアップ事業」の指導員として働いています。大阪市独自の取り組みで、自主的に勉強したい児童に向けて、図書室や教室を貸し出し、学力向上を図る事業です。竹本さんは、1、2年生には点線をつなぐと絵や文字が浮かび上がる教材をつくらせたり、3年生以上には、時間を測って百マスの掛け算で計算力をつける訓練をしたりと、学年に応じた指導をしています。百マス計算ではタイム表をつくって成長の確認と目標の設定をしており、「伸びる子は短期間で30秒以上縮まります。子どもたちの成長の速さにはいつも驚かされます」と顔をほころばせます。

実践環境に身を置き、課題も見えてきました。「子どもに対する観察力、理解力は身につけてきましたが、やはり教師は授業力が

備わってこそです。昼間の仕事を生かして授業力を磨き、わかりやすく楽しく授業できたらと思っています」

第二部の存在は高校3年生の夏に進路指導の先生からの紹介で知りました。「出身が広島県で、周辺にも教育大学や教育学部はありますが、大阪教育大学は伝統があり、教員採用率も高く、教師になるための環境がそろっていると感じました。一部も合格圏内でしたが、現場で働ける環境にあり、実際に昼間働いている学生も多いことが二部を選んだ決め手でした」

それでも入学当初は夜間学部への抵抗がありました。「二部は学年を超えたつながりが広いのが特徴です。共通の授業も多く、みんなお互いをあだ名で呼び合って仲が良い。同じ夢を抱く人たちの集まりだとわかり、違和感もすぐに消えました」と今では愛着たっぷり。第一部の学生には「ぼくのページを読んで二部に関心を持ってもらえたら嬉しいです。ぜひ二部の学園祭に来て熱気を体感してほしい」とメッセージを送っています。

将来の夢は小学校の先生。小学生のときに親身に指導してくれた恩師の影響が大き、「ぼくも卒業のときに、“先生ありがとう”の寄せ書きをもらえるような、愛されて心に残る先生になれたらいいな」と人懐っこい笑顔ではにかみます。

1 第二部が創立60周年記念式典を開催

大阪教育大学第二部は、「第二部創立60周年記念のタベ」(以下、記念のタベ)を10月31日(金)に天王寺キャンパスミレニウムホールで開催しました。第二部は昭和29年4月、国立大学で唯一の夜間の小学校教員養成課程として設置され、昭和32年から今日まで、4600名を超える卒業生を送り出し、平成26年4月、創立60周年を迎えました。その記念の催しとして、「記念のタベ」を開催し、教職員や在学生など、あわせて約120名の参加がありました。また、開催にあたっては、学部学生によるオープニング・アクトも行われました。

「記念のタベ」は田中俊弥夜間学部主事の司会のもと、冒頭、栗林澄夫学長より挨拶がありました。つづいて「たゆまぬ歩み」をテーマに、田中紘二本学名誉教授のピアノ演奏と大木愛一本学教授のチェロ演奏による記念リサイタルが行われ、迫力ある演奏に盛大な拍手が送られました。

ついで、「グローバル時代におけるコミュニケーション力の涵養」という演題のもと、元NHKアナウンサー・高梨敬一郎氏による記念講演が行われました。講演後は、フロアからの質問にも答え、和やかな雰囲気の中で記念講演を終えました。

「記念のタベ」の締めくくりとして、「栄光に向かって」と題した現今の第二部の活動映像がスクリーンに映し出されました。参加者は、往時をふりかえり、第二部の未来に思いをはせていました。



高梨敬一郎氏

2 スマートフォン向けウェブサイトをリニューアル

本学のスマートフォン向けウェブサイトを10月にリニューアルしました。これまでもスマートフォン向けサイトを提供してきましたが、より利用者の視点に立った情報提供という観点で、大手通信企業や私立大学などのサイトを参考に様々な機能を追加しました。

ヘッダー部に「メニュー」と「検索」を設置し、フッター部には「交通案内」「キャンパス地図」「お問い合わせ」のほか、PCサイトへの移動ボタンも入れました。そしてトップページには、自動切替だけでなくフリック操作もできる大型バナーを追加したほか、メニュー構成も見直しました。特に在学生の利用に配慮して、教務システムやメールシステムへの直接リンクも張りました。また、英語版、中国語版、韓国語版もスマートフォン対応になりました。

赤木登代学長補佐(広報担当)は「既に約8割の高校生・受験生がスマートフォンで大学ウェブサイトアクセスすると言われています。これからスマートフォンサイトは大学広報の観点からますます重要になってくると思われませんが、引き続き『誰にでも見やすく、わかりやすく、アクセスしやすい』を基本コンセプトに情報を提供していきたいと考えています」とコメントしました。



〈キリトリ〉×



料金受取人払郵便



差出有効期間
平成27年
8月31日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 - 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学管理部
総務企画課 行



×〈キリトリ〉

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |

公式facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

本誌にご意見をお寄せください。

今後の紙面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.32
webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。この印刷物は、12,000部を648,000円で、すなわち1部54円で作成しました。